

平成26年度事務事業評価に係る外部評価意見概要

平成26年10月2日(木)

1-1 商業活性化推進事業（プレミアム付共通商品券発行事業費補助金）

- ①使用されている店舗に偏りがある。使用されている店舗とそうでない店舗についての分析が必要。地元の商店での消費活性化が目的ならば、もっと幅広い店舗で使用されるような工夫が必要。
- ②使えるところ、使えないところがあるため、商業者にとって公平な事業でない。もっと公平にやるべき。
- ③ビジネスは補助金を受けてやるべきものでない。仕事に魅力を出してお客にきてもらう努力が必要。
- ④一部の方、裕福な方にとって購入しやすい商品券となっているのではないか。
- ⑤農業等への支援に比べ、商業への支援は小さい。今の商店は本当に元気がない。今の時点では続けていただきたいと思うが、ずっと補助金に頼っていては活性化はしない。
- ⑥現状では、商品券の効果として今まで商品を購入したことのない店舗で使用しようという流れにはなっていない。お客さんの減っている店舗を活性化する目的であるならば、事業そのものを見直す必要があるのではないか。補助金の一部でも他事業に振り替え、成果の出る事業、消費者が色々な店舗に足を向けるようにする事業などを実施してはどうか。
- ⑦現状では事業を継続するのは仕方がないのではないか。ただし、やり方の工夫は必要なのではないか。

1-2 乳幼児紙おむつ給付事業

- ①子育て世帯を旭市に定住させる目的を考えると成果があがっているのかは疑問。
- ②利用者から肯定的な評価をもらっているので事業として順調だとするのはどうか。給付を受けている方から聞いても肯定的な意見しかでないようなアンケートのとり方には問題があるのではないか。
- ③紙おむつ以外にも使えるようにし、地元での購入を促せば、商業振興にも寄与するのではないか。
- ④独自の制度としてやっているということについて知らない方が、制度を利用している人の中にも少数ながらいることから、PRは気をつけて行わなければならない。
- ⑤非常に評判がいいと聞いている。また給付実績も安定している。紙おむつに月1万円かかるのならば半分だしても良いのではないか。
- ⑥子育て支援、少子化対策としてやっていいことだと思うが、長期的スパンにたって考えないと、その子どもが戻ってくる環境をつくらないと、いくら小さいときに手厚くしても意味がない。人口は減っていく。勤め先が少ないことも問題。そういうところを子育て支援と一緒に市で考える場を設けてもらいたい。
- ⑦紙おむつを買えない家庭もあるのではないか。昔に立ち戻って布おむつを提供するなどはどうか。紙おむつに限定するのは旭市としてもったいないのではないか。
- ⑧旭市が子育てに良い場所だと思っていただくことが目的であるから、そう思ってもらえるような活動をするべき。

1-3 公園維持管理費

- ①事業費の大きな部分が人件費であることや、委託料等の負担が年々増加しているのは問題。公園は修繕等の整備が必要なものであるし、台帳システムの整備も必要になってくる。公園管理のための業務内容について、早めに効率化の見直しをしていかないと、本来必要な整備にお金がまわらなくなる危険性がある。
- ②公園管理の課があちこちに分かれていると効率が悪くなると感じる。連携をとって無駄のない管理運用をしてもらいたい。
- ③公園はなくても生活には困らない。人口も減っているのに、それに併せて、時代にあわせて少しずつ減らしていく必要もあるのではないかと。公園があっても人がいないということになりかねないのではないかと。
- ④将来負担を考えて、公園まずありきではなく、実際には維持できる公園を選んでいく必要があるのではないかと。個々の公園自体を維持するかどうかの評価も継続して行う必要があるのではないかと。また、それができる仕組みとしての台帳システムの整備に取り組んでももらいたい。

1-4 消防車両整備事業

- ①軽症の方が救急車を利用する場合、お金をとっていいのではないかと。そうすれば本当に救急搬送が必要な方のためにもなるのではないかと。
- ②問題が出てはいけない分野なので、設備の整備はしっかりしていかなければならない。ただし、旭市が負担できるものにも限りがある。中長期的にしっかり事業として維持していかなければならない分野。今後の将来負担、維持していける体制などについて人口動向などを踏まえて考えて、具体的な将来計画を早急に作成する必要がある。

1-5 大原幽学記念館活動費

- ①施設利用者が少ない。もっと全国的にPRしていかないといけないのでは。大掛かりな仕掛けの検討が必要なのではないかと。
- ②生涯学習施設として活動しているものだが、観光や地域振興とも深く繋がっているため、他課や他団体との連携が重要であると思う。
- ③大原幽学を旭市の重要な地域資源として、生涯学習の面だけでなく、旭市全体の盛り上げの中でどう活用していくかを考えていく必要があるのでは。
- ④施設の統廃合も考える必要があるのでは。他の施設と効率的にできる部分は効率化していく必要があるし、PRに力を入れたり、設備の更新などを行うのであれば、その分どこかを効率化していくという形で進めていかなければならない。
- ⑤職員の業務内容の見直しも必要。
- ⑥農業協同組合の元祖というところから、全国のJAとタイアップするのはどうか。
- ⑦国指定になることでメリットはあるのか。この施設を盛り上げていくために国指定を活用していくことはできないかと。

2-1 コミュニティバス等運行事業

- ①少子化が進んでいる中、学校の統廃合なども考えていかざるを得ない。通学手段としてコミュニティバスの利用も考えられる。そうした部分と一体で考える必要があるのではないかな。
- ②停留所を無くして、フリー乗降にすれば利便性が増すのでは。特に乗降が少ないところで検討してはどうか。
- ③便数が多いのではないかな。利用者の少ない便や区間は無くしてはどうか。
- ④買い物の側面で使い勝手に改善の余地があるのではないかな。中央病院に行くのはどのルートにもあるが、サンモールには行けないルートがある。
- ⑤音楽などによってバスが来たことを知らせる仕組みや交通弱者の方へ利用したい日時を聞き取りし、迎えに行くという方法もあるのでは。
- ⑥高齢者の方の乗降場所について融通をきかすなど、きめ細かいサービスも検討してはどうか。
- ⑦運賃は100円以上には上げられないと思う。

2-2 電算システム運用事業

- ①自分たちで仕様をつくれな部分については改善してもらいたい。
- ②使い勝手が多少不便でも、業者間で競争をさせて安い方がよいと思う。
- ③住民系のサービスについて、自治体クラウド活用は、近隣市町村に限らず、県内でも、ぜひ検討してもらいたい。
- ④マイナンバー制度は、合併の時と同様に業者に仕事が集中することが予想されるので、予算対応などは考えておいた方がよい。
- ⑤必要な機能を要件定義して、競争入札させることは可能ではないかな。ぜひ検討してもらいたい。
- ⑥電算経費については、どこの自治体でもブラックボックスになっている。積算がいい加減であるという話も聞く。積算が難しいのはわかるが、ブラックボックスにならないよう知恵を出して経費を削減して欲しい。

2-3 長寿祝金支給事業

- ①100歳の時に支給すれば、101歳以上は必要ないのではないかな。
- ②この事業は廃止にすべきではないかな。祝金は福祉ではない。お金が潤沢にあるなら別だが、少子化対策にお金をかけるべきではないかな。
- ③現金を支給するのではなく、商品券を配ってはどうかな。その方が地元にお金が落ちるので良いのではないかな。
- ④老人にとっては、81～87歳の間に何も無いのが寂しい。商品券3千円でも配ってはどうかな。

2-4 小学校情報教育推進事業

- ①事業自体は必要だと思うので、いかにコストを減らしていくかだと思う。
- ②前年度から20%近く事業費が増加している。もっとコスト意識があると良い。
- ③導入した学習支援ソフトについては、きちんと効果測定を行う必要がある。
- ④タブレット端末導入の要望があるようだが、キーボード操作を習熟することも大事なので、時期尚早ではないかと思う。
- ⑤情報モラルでは、パソコン検定の試験の中で問題もあるのでやってみるのも良いのでは。

2-5 スポーツ振興事業（スポーツ交流事業補助金：向太陽杯補助金）

- ①大会結果がホームページで見られない。パークゴルフをやる方への大会のPRがもっと必要なのではないか。
- ②公平性というところでは非常に問題がある。このイベントに参加した人だけが一人1万円も補助されている。しかも市内の参加者は30名で固定されている。他のイベントと比べてどうか。しかも目的に結び付いているかという点も効果もないのではないか。
- ③大会として、パークゴルフ界で有名ないわゆるメジャー大会とするか、協会主催の小さな大会とするか、いずれかしかないと思う。前者が良いと思うが、そのためには相当の努力が必要。
- ④おもてなしが主な目的というのはどうか。それはスポーツ振興ではない。商工観光の分野ではないか。全国からの参加者はおもてなしがあれば嬉しいだろうが、それよりもパークゴルフがやりたいのではないか。参加費についても倍にしても参加するのではないか。
- ⑤パークゴルフ場そのもののPR、人を呼べる工夫が必要だと思う。
- ⑥旭市のパークゴルフ場が良い施設ならスポーツに特化して、おもてなしはなくても良いのではないか。
- ⑦おもてなしの部分はボランティアや賞品を出しているところをお願いしてはどうか。